

Excel ファイル提供 復刻版『南洋庁公報』総目次 凡例

- 1 本総目次は、復刻版『南洋庁公報』の総目次である。総目次は辻原万規彦が編集を担当し、ゆまに書房編集部が校正を行い、2012年3月までに作成した。なお、本総目次には「復刻版『南洋庁公報』別巻1総目次」に掲載できなかった項目もあわせて掲載した。また、南洋庁公報の形式や内容の詳細については「復刻版『南洋庁公報』別巻2」に収録した解題を参照いただきたい。
- 2 総目次の配列は、1922（大正11）年から1944（昭和19）年までの年ごととし、年ごとにそれぞれシートを作成した。それぞれのシートでは、さらに南洋庁公報の番号順もしくは発行日順に配列した。また、南洋庁公報に掲載された各記事は掲載順に配列した。
- 3 復刻版『南洋庁公報』では1922（大正11）年が第1巻、1943（昭和18）年が最終の第25巻にあたり、基本的には1巻ごとに1年分を収録した。最終の第25巻には、確認できた南洋庁公報の分量が少ない1944（昭和19）年もあわせて収録した。1939（昭和14）年から1941（昭和16）年までは南洋庁公報の分量が多く、1年分を2巻に分けて収録したため、1939（昭和14）年の前半が第18巻、後半が第19巻、1941（昭和16）年の前半が第22巻、後半が第23巻にあたる。なお、1941（昭和16）年の前半は欠号が多い。
- 4 本総目次に掲載した項目は、次の通りである。
 - ・復刻版『南洋庁公報』の各巻の掲載頁（「ノンブル」）
 - ・各記事の「種別」とその「番号」
 - ・各記事の「件名」（備考を含む）
 - ・当該の記事が掲載されている「公報番号」と発行年「月日」
 - ・当該の記事が掲載されている南洋庁公報の「頁」
 - ・編者によるコメントや注意書き、総目次を作成した際の覚え書きなどの順である。

「種別」は勅令、庁令、訓令、告示、彙報などに分かれるが、詳細は「復刻版『南洋庁公報』別巻2」に収録した解題を参照いただきたい。種別の番号では「第〇号」の「第」と「号」は省略した。例えば、「庁令100」は「南洋庁令第100号」、「支庁告示 サイパン1」は「サイパン支庁告示第1号」などの意味である。

編者によるコメントや注意書き、覚え書きの補足は以下の通りである。

- ・文字の色分けや文字を入れ込んだセルの位置には特に意味はない。
 - ・「撮影」などは「復刻版『南洋庁公報』が底本とした国立国会図書館憲政資料室所蔵のマイクロフィルムの撮影」の意味である。
 - ・出所の「ワシントン」はアメリカ議会図書館所蔵の原本を底本としたことを示し、「ハワイ」はハワイ大学ハミルトン図書館所蔵の原本を底本としたことを示す（セルに橙色で着色）。
- 5 南洋庁公報の原本には、年ごとに、あるいは半年ごとに、記事を種別ごとに配列した「総目次」が付されている。欠落している年もあるが、復刻版『南洋庁公報』では原本の「総目次」を巻頭にお

いた。本総目次を作成する際には、原本の「総目次」も参考にし、南洋庁公報自体が欠落している場合でも、原本の「総目次」に掲載されていれば、本総目次に転載した。その場合には、本総目次中の「復刻版『南洋庁公報』の各巻の掲載頁（「ノンブル」）」は空欄とし、原本の「総目次」から転載した文言などは橙色の文字とした（一部黒字のままのところもある）。

6 原則として漢字の旧字体は新字体に置き換え、カタカナはそのままとした。また、漢数字はアラビア数字に置き換えた。なお、明らかに誤りと考えられる文字は桃色で示し、その旨のコメントを記載した。

7 件名の文言については、以下のように加工した。

① 「左の通」などの文言は省略し、「改ム」は「改正」に置き換えた。

② 必要に応じて次のように補足した。これらの補足は、本総目次中に赤字で示した。

[] 附則からの引用

【 】 参照など関連する記述からの引用

《 》 編者による引用

() 注意書きなど

* タイトルには現れないが、その内容を具体的に補足するもの

③ 件名の備考欄は各記事の内容からの補足である。

8 総目次のセルに着色した意図は以下の通りである。

薄黄色：各公報の先頭の記事であることを示す（薄黄色のセルから次の薄黄色のセルの直前までが同じ番号の公報である）

薄緑色：欠落頁であることを示す

薄青色：編者によるコメントを示す

橙 色：ハワイ大学ハミルトン図書館に所蔵されている原本を底本としたことを示す

9 本総目次の利用にあたっては、次の通りとしていただきたい。

「利用は自由とするが、本総目次のデータを使用して何らかの成果物を作成した際には、本総目次のデータを使用した旨を明記していただきたい。また、本総目次の部分あるいは全てを著作物（デジタル版も含む）に転載する場合は編者（辻原万規彦）にその旨を連絡していただきたい。」
なお、本総目次のデータに誤りがあっても、編者とゆまに書房は責任は負いかねる。

以上